令和6年度 保健体育科（保健） 第3学年 年間指導計画

月	時数	単元名 (小単元名)	ねらい	評価基準			学習指導要領
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	
4	2	●健康な生活と病気の予防 感染症の原因 感染症の予防	感染症は病原体がおもな要因となって発生し、発生源をなくす、感染経路を遮断する、主体の抵抗力を高めることで予防できることを理解させる。	・感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できることを理解している。 ・健康の保持増進や疾病の予防のためには、個人や社会の取組が重要であり、保健・医療機関を有効に利用することが必要であること。また医薬品は、正しく使用することを理解している。	・健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・健康な生活と疾病の予防についての学習に自主的に取り組もうとしている。	(1)ーア (オ)イ
	2	性感染症とその予防 エイズとその予防	性感染症の症状や特徴を理解させる。 性感染症を予防するには、性的接触をしないことやコンドームを正しく使うことが有効であることを理解させる。				
	2	健康を守る社会の取り組み	人々の健康を守るために、地域でどんな活動が行われているか理解させる。 保健機関の役割を理解し、利用できるようにさせる。				
	2	医療機関の利用と医薬品の使用	医療機関の役割と利用の仕方、医薬品の作用と、正しい使い方を理解させる。 医療機関の利用の仕方や医薬品の正しい使い方について考えさせる。				
10	1	●健康と環境 環境の変化と適応能力	環境の変化に対して体はどのように変化するか理解させる。 適応能力には限界があることを身近な事例を通して考えさせる。	・身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること。また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があることを理解している。 ・飲料水や空気は、健康と密接な関わりがあること。また、飲料水や空気を衛生的に保つには、基準に適應するよう管理する必要があることを理	・健康と環境に関する情報から課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・健康と環境についての学習に自主的に取り組もうとしている。	(4)ーア (ア)イ
	1	活動に適した環境	活動に適した温度、湿度、明るさなどの環境の範囲について理解させる。 室内の環境の調節の仕方について考えさせる。				
	1	室内の空気の条件	二酸化炭素や一酸化炭素の体への影響とそれらの管理方法について理解させる。 室内の空気を衛生的に保つ必要性や方法について考えさせる。				

1	1	水の役割と飲料水の確保	水の役割と飲料水の確保について理解させる。 安全な水について考えさせる。	解している。		
	2	生活排水の処理	生活排水を衛生的に処理する必要があることを理解させる。 水を汚染しないためにできることについて考えさせる。	人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があることを理解している。		(4)ーア (ウ)イ
3	1	ごみの処理	ごみを衛生的に処理する必要があることを理解させる。 ごみの問題の解決の仕方について考えさせる。			
	2	環境の汚染と保全	環境汚染が健康に及ぼす影響について理解させる。 環境汚染を防ぐための取り組みについて考えさせる。			